

ものづくり企業就職セミナー「印刷の可能性を拡げ続ける」

～独自性にこだわり、新たな価値の創造にチャレンジ～ を開催しました

講師： 和田 美佐雄氏（欧文印刷株式会社社長 [会社HP http://obun.jp](http://obun.jp)）

コーディネーター： 酒井 理氏（法政大学キャリアデザイン学部教授）

ゲスト： 田中麻衣子氏（欧文印刷株式会社第3お客様担当部、
都立中央・城北職業能力開発センターパソコングラフィック科 修了生）

- ・都立中央・城北職業能力開発センターでは若い方々に「ものづくり」への関心を高めてもらい、魅力的な就職先であることも知っていただくため、公益財団法人東京しごと財団と協力し、「ものづくり企業就職セミナー」を毎年度開催しています。
- ・本年度は、平成30年11月26日に開催。定員を上回る66名の方々にご参加いただきました。
- ・本年度のセミナーでは、欧文印刷株式会社の和田社長と法政大学の酒井教授にものづくりの幅広い魅力を大いに語っていただきました。また、中央・城北職業能力開発センターの修了生で、現在、欧文印刷株式会社で働く田中さんから、ものづくり業界で実際に働く率直な感想や考えを話していただきました。
- ・来年度もほぼ同時期にこのようなセミナーを開催する予定です。詳細が決まり次第、ホームページ等でお知らせします。



左：和田社長、右：酒井教授

◆欧文印刷株式会社 和田社長◆

— 独自の商品開発が社員のやる気を生み、育てる —

- ・欧文印刷株式会社は、「ログ製本サービス」、「フォトブック」などのインターネットを利用したサービスに加え、ノート型のホワイトボード「nu board」、「点字・触知図」など、独自の印刷技術による商品開発をしています。インターネットと紙それぞれの利点を生かし、視覚障害のある方にも有益な商品開発を意識しています。
- ・自分たちで問題意識をもって「企画提案型」にならないと企業は存続できないと私は考えます。自分たちで、ほかの人が考えられないようなものを苦しみながらも生み出す。これができないと、今後は企業が生き残っていくことは難しいです。
- ・フォトブックを開発し、販売を始めるとすぐSNS上で反響がありました。このような反響はそれまでの取引先からの受注で生産するビジネスではありえなかったことです。お客様からの反響は、社員の中にやりがいとやる気を生み、それが商品の一層の改良に結びつき、その結果息の長い商品が育ちます。このようなこともあり、社員の開発志向が高まってきました。



nu board の展示

— 開発志向のものづくりに求められるのは「経験」よりも「意志」 —

- ・世の中にどんな商品・サービスが出回っているか、それとどう結びつけると人々の役に立つ商

品・サービスを生み出せるかを考えることができる人です。また、自分たちの知らない世界、新しい文化に触れて、その人達のニーズを引き出すことができる人です。

- ・「きちんと質問に答える」、「自分の意見を言える」ことも大切です。
- ・当然のことながら、誰もが最初は経験がありません。大事なことは、どのような将来像をその業界、会社で描くことができるか、その意志です。その上で「場数」を繰り返し、繰り返し経験することが一番自分を高めることにつながります。

◆欧文印刷株式会社 田中さん◆

— 職業訓練で仕事の基礎を身に付けた —

- ・中央・城北職業能力開発センターパソコングラフィック科で1年間学びました。
- ・訓練では、イラスト・画像編集等のパソコン操作に加え印刷技術の専門用語に触れる機会もいっぱいありました。印刷のプロの世界に飛び込んで半年余りになりますが、専門用語を言われても、職業能力開発センターで勉強したから理解できました。基礎が出来ている分、就職後、仕事がやりやすいという面はあります。
- ・とはいえ、まだまだ足りない知識が沢山あり、先輩に教わって勉強し、プロに近づいていくのが私の目標です。「為せば成る。自分を信じてやるしかない」という気持ちでやっています。



新入社員の田中さんも登場（写真左）

— 開発志向の「ものづくり企業」で働くやりがいと喜び —

- ・現在、「nu board」をお客様の用途に応じてカスタマイズする企画営業を担当しています。会社は入社したばかりの私に上場企業への営業という責任ある仕事を任せてくれました。その期待に応えたくて、企画や話す内容を練り、工夫しながらお客様とやりとりを重ねていくなかで、お客様から良い反応をいただくようになり、やりがいを感じています。
- ・先日、イベントで視覚障害者の方と接する機会があり、点字・触知図などの商品について「これいいね」とのご意見をいただきました。自社の商品が社会に貢献していると思うと働いていてうれしいです。
- ・ものづくり企業は、自分たちが企画し、工夫した商品が店頭に並び、使ってもらえるのを見ると働きがいを感じることができます。面白いのでぜひ挑戦して欲しいと思います。



点字・触知図

◆法政大学 酒井教授◆

- ・「ものづくり」のとらえ方は、昔と今では変わっています。ものを作るためには、技術とか工夫が必要ですが、今の時代はICT技術の活用が無視できなくなっています。
- ・もうひとつは、消費者、生活者、利用者の視点。ユーザーエクスペリエンスとあって、使う人が何を感じるのかということに対して、ものすごく注目が集まっています。ユーザーの視点から見たメリット、全ての人にとって使いやすいかを考える視点がこれから大事になってきます。
- ・使う人の視点に立つために、広く社会に出ているいろんな人と話をしながら知識を身に付け、センスを磨くことが、これから働こうという人に特に求められていると感じました。

- ・ものづくり企業は、使う人のニーズに応えるため、自社の技術で足りない部分を周辺の企業などの技術やノウハウと組み合わせて新しい商品、サービスを生み出すことが増えると思います。
- ・そうした動きを踏まえれば、就職先は「業種」にとらわれ過ぎず、どの「企業」がそうしたビジネスを展開しているか、これを考えて選ぶ視点が大事です。
- ・また、ご自身の性格とか働き方の希望、価値観に企業の方向性が合っているのかを見定めることも非常に大切だと思います。(以上)

<セミナーを終えて>

来場者のご感想

- ・「ものづくりのリアルなお話しを、社長から聞くことが出来、参加してよかったです」
- ・「職業訓練を卒業して実際に働いている先輩の話がきけたのでよかったです。ものづくり企業で働くイメージがしやすかった」
- ・「ものづくりのことや業界のことが理解できました」
- ・「やりたいことへの積極性を持ち続ける事の大切さを、改めて感じたと同時に、背中を押して頂いたというのが、率直な感想です。ありがとうございました」

本日のポイント

- ・ユーザーの視点に立ち、他の企業と協力して新しいものを生み出す企業でなければ生き残れない
- ・お客様の役に立つものを生み出し、感謝されることで、社員のやる気生まれ、成長できる
- ・社員のやる気が高まることで、一層よいものを生み出していけるようになる
- ・新しいものを生み出すためには、就職した企業・業界でどのような将来像を描くことができるかその意志を持っているかが大切
- ・中小企業は、若いうちから責任あるしごとを任せてもらえ、お客様から「これいいね」など、良い反応を頂くことができる。それがやりがいと喜びを生み出す

(ご参考) しごとを探す・相談したい方へ

ハローワーク <http://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-hellowork/>

都内には17か所のハローワークがあり、総合的雇用サービス機関として職業相談、職業紹介、雇用保険の手続き等を行っています。

東京しごとセンター <http://www.tokyoshigoto.jp/>

しごとをお探しのあらゆる年齢層の方を対象に就職活動をサポートしています。

都立職業能力開発センター <http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/kyushokusha-kunren/school/>

求職中の方や新たに職業に就こうとしている方などに、就職に向けて必要な知識・技能を学んでいただくための「職業訓練」を東京都が設置する施設で実施しています。

都内に12か所の施設（職業能力開発センター・校）があります。

都立中央・城北職業能力開発センターでは印刷系4科、OAシステム開発科、介護サービス科で訓練を実施しています。

<https://www.hataraku.metro.tokyo.jp/vsdc/chuo/index.html>